

公益大ニュース



©Ariane Santamaria

2022. 1

東北公益文科大学広報誌



新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、10月17日に学内者のみで公翔祭（大学祭）を開催しました。多くのクラブ、サークルが、日頃の練習の成果を大ホールで堂々披露。ダンス、演奏などの見ごたえのあるパフォーマンスに観客は惜しめない拍手を送っていました。

公益大へようこそー新任教員あいさつ

02_広崎 心 准教授（経営コース）

研究活動

- 03_教員研究（門松 秀樹 准教授）
- 04_外部資金に基づく研究（三木 潤一 教授）
- 05_マルチプロジェクト研究機構
共同研究・受託研究等
- 06_大学院

教育活動

07_教育の現場より ～分野を越えた
フィールドワーク～（温井 亨 教授）

地域連携

- 08_海ごみ問題解決の取り組み
- 09_社会福祉士実習指導者講習会

学生活動

- 10_公翔祭（大学祭）
保育士試験合格
- 11_オレンジリボン運動
女子サッカー部
- 12_Topic! & 編集後記

ようこそ東北公益文科大学へ 新しく着任された先生をご紹介します



現在本学は、専任教員42名（特任教員含む）で教育研究活動を行っています。
今回は、令和3年9月に着任された先生から、着任のごあいさつと皆さまへのメッセージをいただきました。

広崎 心 准教授（経営コース）

専門：経営学

2021年9月より本学経営コースに赴任いたしました。医薬品業界での実務経験に基づき、専門分野は商品開発、マーケティング、戦略的提携と提携管理、企業間ネットワークですが、最近ではベトナムを中心とするインドシナ半島におけるサプライチェーンマネジメント、ビジネスマッチング、そして地方自治体や地方銀行による地元企業の海外進出支援について研究を深めています。前職の大学は都内であったため、近隣の神奈川県産業支援財団や横浜銀行による支援活動について研究をしておりましたが、本学では庄内地域を中心とする山形県や近隣の秋田県や新潟県にフィールドを移し、地元企業、産業支援財団、商工会議所、地元金融機関などを積極的に訪問し最適な支援活動方法について研究を行いたいと考えています。

また、本学ではマーケティング論や経営管理論を担当しています。両科目ともアクティブラーニングを積極的に取り入れ、マーケティング論では実際の企業のマーケティング部同様に少数チームを編成し、商品開発、コンセプトの探求、プロモーション戦略などについて思考を深めてもらいます。経営管理論では企業の仕組みや戦略的提携による企業間の役割について学ぶだけでなく、契約交渉のロールプレイングを行ってもらいます。これら科目の受講生のなかから優れたマーケッターやネゴシエーターを輩出できるように取り組んで参りますのでよろしく願いいたします。



視察ツアーでの集合写真
（ロンアン省 KIZUNA レンタル工場）



ハノイで開催された経済交流会
での神奈川県黒岩知事との写真
（2019年11月）



エムデン無線工業への工場見学
（神奈川県藤沢市）

【教員研究紹介】

歴史を振り返る 一庄内の歴史、日本の近代史

門松 秀樹 准教授（政策コース）

本学の門松秀樹准教授は日本政治論、日本政治史が専門で、2021年はNHK大河ドラマ「青天を衝け」の時代考証を担当し「日本資本主義の父」と呼ばれる実業家、渋沢栄一の生涯を研究しました。

その一方、庄内の歴史の調査研究にも精力的に取り組み、新聞社との共同研究を行っています。その活動内容をご紹介します。

2022年に庄内藩主だった酒井家の入部400年を迎えることから、荘内日報社との共同研究により酒井家入部以降の庄内の歴史を通史的に検証する機会をいただきました。戊辰戦争における勇戦から、庄内藩は藩主と藩士、領民の固い結束で知られていますが、これは決して所与のものではなく、200年以上にわたる酒井家の治世の中で紆余曲折を経て、さまざまな人々の努力の上に成り立つものであったことを、この共同研究を通じて改めて示すことができたのではないかと思います。この成果は、『荘内日報』に10回にわたって「酒井家庄内入部400年 時代と歴史」という連載記事として掲載していただきましたので、ご覧になられた方もいらっしゃるかもしれません。

また、私自身の研究を生かした活動ということであれば、大河ドラマ『青天を衝け』の制作に時代考証として参加しました。これまでも、2013年の大河ドラマ『八重の桜』や、連続テレビ小説の『あさが来た』・『わろてんか』などにも資料提供として参加した経験はありましたが、時代考証としての参加は初めてでした。考証作業では、研究の際には気にも留めなかった、史料にも残されていない日常のふとしたことなどを尋ねられることもしばしばで、私自身も学ぶことが多かったように思います。

『青天を衝け』は渋沢栄一の91年余りに及ぶ生涯を描いた作品ですので、幕末から明治・大正・昭和と、まさに日本の近代史を渋沢と共に駆け抜けたように感じました。



門松 秀樹 准教授（政策コース）



大河ドラマガイド『青天を衝け』
（完結編）の表紙（NHK提供）

本学図書館では「渋沢栄一と日本の近代」の特別展を行いました。図書館の蔵書だけでなく、門松先生や酒田市立光丘文庫からお借りした貴重な資料を展示。NHKニュースで取り上げられたこともあり、多くの方々が来場しました。



図書館スタッフが来場者に説明を行いました。



門松先生所蔵の貴重な資料等



大河ドラマ主演の吉沢亮さんよりサインをいただきました。



【外部資金に基づく研究】 地方公共サービスの望ましいあり方、地域活性化を目指して 三木 潤一 教授 (経営コース)

本学の三木潤一教授は、自治体や民間等から外部資金を得て、地方公共サービスのあり方や地域活性化に関わる数々の研究を実施しています。今回はその研究内容をご紹介します。

私の専門分野は、政府の経済活動を対象とする公共経済学・財政学・地方財政論です。私はこれまで、地方公共サービスにおける公共部門と民間部門の役割分担や広域化・大規模化、人員・車両・施設等の最適配置問題などについて、経済学の視点からごみ処理を中心に研究を行ってきました。民間委託の推進をはじめ、いかに生産性を高めるか、といった生産面から考察するとともに、費用負担面から、サービスの費用は税と料金のどちらで賄うべきか、といった問題に取り組んでいます。その中では本年度、民間委託の最適割合についての研究「地方公共サービスの民間委託におけるホールドアップ問題—生活系ごみ収集に関する理論的および実証的考察—」に対し、北海道東北地域経済総合研究所 ほかとう総研地域活性化連携支援事業から研究代表者として連携支援金を得て、ごみ収集サービス民間委託化の推進によるホールドアップ問題等の検討を進展させています。



三木 潤一 教授 (経営コース)

日本学術振興会 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (基盤研究 (C)) に関しては、研究課題「地方財政健全化のための判断指標と新地方公会計情報の有機的関係性の解明」が本年度採択されたため、研究代表者として財政学と会計学との学際的研究を開始しています。

ほかに研究代表者として外部資金を得ている研究には次のものがあります。産学連携の共同研究としては、「酒田市のコンパクトシティ化の検討」を昨年度3月から進めています。地方公共団体からの受託研究としては、本年度で4年目となる酒田市「酒田市観光に関する調査研究」があり、本年度から新たに、山形県庄内総合支庁「庄内地域転入超過「強み」分析に関する調査研究」(来年度も継続予定)が加わりました。

また、本年度、東北公益文科大学マルチプロジェクト研究機構「公共経営研究所」を新設し、研究所長として取り組んでいる地方公共団体からの受託研究には、酒田市総合計画(後期計画)策定等に係る酒田市「市民アンケート調査分析等」、遊佐町「遊佐町総合発展計画 後期基本計画策定支援」があります。

関西学院大学の2019年度産業研究所共同研究プロジェクトに採択された研究課題「地域活性化の経済分析—官と民の力を活かす—」においては、学外研究分担者として来年度の叢書刊行に向け以前に行った観光資源に関する研究「コモンプール財としての観光資源の管理・運営—日本の地域の取組み事例から—」を進展させるべく取り組んでいます。

本年度は外部資金に特に恵まれたため、各研究において成果をあげられるよう力を尽くす所存です。

本学では、他にも様々な共同研究・受託研究等を実施しています。 ※右ページをご参照ください。



樋口恵佳准教授
(政策コース)

樋口恵佳准教授 委託(研究委託)

海洋の脅威への法的対応に関する調査研究、毎年年末に発行される「海洋白書」に関連する国連等の国際機関の動きの情報収集を行っています。



新名阿津子准教授
(観光・まちづくりコース)

鳥海山・飛島ジオパークの ユネスコ認定に向けた 連携事業

鳥海山・飛島のユネスコ世界ジオパークへの加盟認定を目指し、調査研究や連携事業を実施しています。本年度は鳥海山飛島の地質遺産の国際的価値や地域課題について研究しています。

【マルチプロジェクト研究機構】 現代社会の諸課題の解決に貢献

マルチプロジェクト研究機構は、公益に関する理論及び実態について総合的に研究し、公益学の理論体系を確立するとともに、地域共創による社会づくりの方途を示しつつ、現代社会が抱える諸問題の解決に貢献することを目的に設置されています。

研究所名	主な研究テーマ
地域共創・人材育成研究所	・スクールソーシャルワーカーの育成方法に関する研究 ・社会福祉士養成課程受講生を対象とした「自己調整学習支援プログラム」の実践・評価 ・公益学部における地域共創・人材育成の方法に関する研究 ・地域共創コーディネーター養成プログラムの6年間の評価・まとめ及び改善点の分析
庄内・地域デザイン研究所	歴史的建築や都市内河川などの地域資産を活用した地域再生手法の研究
とびしま未来研究所	山形県酒田市飛島における実践的研究を中心に、全国の離島の内発的地域づくりについて研究
ニュージーランド研究所	ニュージーランドの公益政策、公共活動に関する総合的な調査・研究
地域イノベーション研究所	地域イノベーションに関わる法と政策の研究
文化財デジタル化研究所	モノやアナログで蓄積されてきた地域の知的資産をデジタルに移行し、そのストックを次世代でも活用できるようにすることを目的とする諸研究(特に庄内の文化財について、多様な電子媒体、電子情報での保存について検討するとともに、その活用も検討し、地域資源に新しい視点を創る研究促進を行う)
新生企業戦略研究センター	様々な背景からの研究者による新規調査手法を用いて、地域・事業発展のさらなる方法に関する研究を行うことの提案(中核となる研究分野は、新生事業開発のための新たなビジネス戦略の開発)
インターネット望遠鏡プロジェクト研究所	インターネット望遠鏡の開発と天文教育への活用のための研究
公共経営研究所	酒田市・遊佐町の総合計画に関する住民アンケートの調査分析

過去3年間の主な共同研究・受託研究等 (研究代表者または単独の研究)

楡引地域デマンドバス導入に関する調査及び制度内容提案業務委託(神田直弥教授)	地域建設業の事業継承に向けたストラクチャーに関する研究(斎藤徹史准教授)
酒田市観光に関する調査研究業務(三木潤一教授)	庄内藩主酒井家に関する調査研究(門松秀樹准教授)
酒田市 市民アンケート調査分析等業務(三木潤一教授)	児童虐待対応に関する調査及び研修指導業務(灰谷和代准教授)
遊佐町総合発展計画後期基本計画策定支援業務(三木潤一教授)	保育現場における子ども家庭アセスメントシステムの構築(灰谷和代准教授)
庄内地域転入超過「強み」分析に関する調査研究業務(三木潤一教授)	笹川平和財団業務委託(研究委託)(樋口恵佳准教授)
ほくとう総研地域活性化連携支援事業資金(三木潤一教授)	鳥海山・飛島ジオパークのユネスコ認定に向けた連携事業(新名阿津子准教授)
酒田市のコンパクトシティ化の検討(三木潤一教授)	舟形町住民主体の地域づくり事業コーディネート業務(地域共創センター)
ニュージーランド連続講座業務委託(武田真理子教授)	ボランティアコーディネーションカ3級検定業務(地域共創センター)
酒田KOEKIマップ(住民目線のGISコンテンツ作成事業)(広瀬雄二教授)	地域共創コーディネーター養成プログラム構築事業(大学院)
町民幸福度アンケート調査・町民ワークショップ支援事業(斎藤徹史准教授)	地域IT人材育成業務(地域共創センター)
官民連携の実現可能性に関わる調査研究等事業(斎藤徹史准教授)	

～共同研究、受託研究等に関するお問い合わせはこちらまで～
【窓口】大学戦略推進室 TEL: 0234-41-1119 / Email: senryaku@koeki-u.ac.jp

【大学院】
公益社会を実現するために
地域の皆さんと一緒に考える機会

「学」と「社会」を繋ぐ
ステークホルダー・ワークショップ

本大学院では、令和4年度のカリキュラム改革に向けて、さまざまな取り組みを行っています。その一つとして、2021年7月までに学内で策定した改革案をもとに、地元企業代表者を個別に訪問し、ステークホルダー・ヒアリング(7社)を行いました。

また、8月27日(金)にはヒアリングでのご意見と合わせて、ステークホルダー代表者(7名)と本学教員との対話形式でのワークショップも開催しました。当日は「大学院の人材育成像について(期待・願望・イメージ、夢等)」「大学院人材育成像の実現のための大学院教育・運営への提案・意見」をテーマに話し合いました。参加者から「具体的な社会の課題解決につながるようなカリキュラムを提供してほしい」「地元企業と一緒に考える科目があってもいいのではないかな」など活発に意見を交わしました。いただいたご意見、提案内容は学内へフィードバックし、大学院改革の実行プロセスに反映していきます。



世界が掲げる共通目標を考える「公益とSDGs連続講座」



本大学院では、令和3年度鶴岡市地域課題解決事業として「公益とSDGs連続講座」(全3回)を開催しています。11月1日(月)に開催された第1回目では、「公益とSDGs・庄内とSDGs」と題して、慶應義塾大学商学部の梅津光弘教授とバンティング・ティモシー特任講師が講演。梅津教授からは「SDGs発想までの経緯と、そこに込められた思い」を、バンティング講師からは「SDGsは誰のためにあるのか」「ニュージーランドと日本の現状」「庄内に暮らす私たちにできること」等についてお話いただきました。11月29日(月)には「貧しさとは～世界と日本の視点から～」をテーマに、澤邊みさ子教授と東江日出郎准教授が登壇。12月13日(月)には「権利とは～子どもと女性～」をテーマに、伊藤真知子名誉教授と灰谷和代准教授が講義しました。コーディネーターの玉井雅隆准教授を中心に毎回、オンラインを含め、参加者との意見交換も活発に行われています。全世界の共通目標であるSDGsの17の項目について、理解を深めるとともに、169の達成基準に向けて私たちはどう行動するのかを考える、よい機会となっています。

【教育の現場より】
学生が見つけた学びを、複数分野の教員によるフィールド
ワークでバックアップ 温井亨 教授(観光・まちづくりコース)

新型コロナウイルス感染症対策として、公益大ではフィールドワークの自粛をしておりましたが、2021年度の春からフィールドワークを再開いたしました。地域とフィールドワークでつながる体験を通じた、主体的な学びの実践例をご紹介します。

観光・まちづくりコースの歌岡大祐さんは、私のゼミに所属する3年生です。この春学期、メディア情報コースの広瀬先生が開講した「酒田マップ」という演習を履修しました。この授業は市民に役立つ地図をネット上につくる演習で、地図の内容は学生が考えます。そこで彼のチームが選んだのが、「酒田にある鳥獣保護区を市民にもっと知ってもらふマップづくり」でした。

テーマを選ぶにあたり、彼は鳥海山麓にある環境省の猛禽類保護センターの方に相談しました。野鳥好きの歌岡さんは、地域の同センターの長船裕紀さんの講演を聞いていて、その後もこうした相談ができる交流を持っていたのでした。

長船さんには演習の中で大学にもお越しいただき、野鳥観察の案内もしてもらい、発表会では講評もいただきました。地域のセンターの方にもご協力いただき、さらにコースの枠を越えた幅広い学びを提供するため、広瀬先生も私もそれは良いとバックアップしたわけです。

公益大の学びは、学生の関心を引き出し、それを伸ばしてあげることではないかと思っています。リベラル・アーツ教育と言って良いかも知れません。1つの専門を教え込むのではなく、学びたいことを見つける手助けをする、そういう教育です。

写真はフィールドワークの一環として、歌岡さんの案内で鳥獣保護区の海岸林を歩いたときの様子です。マップづくりのメンバー、面白そうだからと参加した学生、それに広瀬先生と私も彼に引っ張られて歩きました。鳴き声だけでほとんど鳥が姿を現さなかったのはご愛敬。

今年は、ダブルメジャーという2つの主専攻が持てる制度も始まりました。適用になるのは本年度入学の1年生からとなりますが、上級生にも既に複数の学びを実践している学生がいます。

地域に出て、自分でテーマを見つけ、複数のコースの教員がバックアップ、面白そうだねと教員もそこに参加する、そういう活動をこれからももっと増やしていけたらと思っています。



鳥獣保護区の海岸林を歩く
(写真左から2人目：歌岡大祐さん)



環境省の方々に相談し、
市民に役立つマップづくりを目指す

【地域共創センター】

海と川のつながりから「ごみ問題」を考え、行動しよう！ 庄内の若者から「ごみゼロ」の文化を育む (2)

呉尚浩 教授（観光・まちづくりコース）

公益大では2001年の開学より、飛鳥クリーンアップ作戦などの地域の多様な主体の共創による海岸クリーンアップ活動に積極的に参画してきました。2003年に飛鳥と公益大で開催された「離島ゴミサミット・とびしま会議」は、その後、全国各地で開催される海ごみサミットに引き継がれ、2009年に超党派の議員立法で成立した「海岸漂着物処理推進法」制定への道のりの第一歩となりました。膨大なごみが海岸に打ち寄せられている「非公益」的な姿から、裸足で歩ける「公益」的な海岸を取り戻すための地道な活動と制度改革、国際的な取り組みは「公益を学ぶ」格好のテーマです。また、飛鳥や庄内海岸が2016年から続いているIVUSA（NPO法人国際ボランティア学生協会）の活動を通じて、公益大生のみならず、全国の学生の実践や学びの場となっていることはうれしい限りです。

前号でご紹介した活動以外に、今年度は7月3日(土)に学生とびしまクリーンアップを開催しました。秋学期には、今年度リニューアルしたSDGs科目「海洋ごみ問題と循環型社会デザイン」（担当：呉尚浩、樋口恵佳）において、宮野浦海岸のごみ調査とクリーンアップ活動、環境学習プログラムの提案、昨年度策定された「第3次山形県循環型社会形成推進計画」に対するアクションプログラムの提言にチャレンジします（この授業は、公益大発学生サークルSCOPの学生からの提案で実現したもので、2019年度と2020年度は上記計画の改定へ向けた提言に取り組みました）。

センターの事業としては、来年2月頃に「RE:プロジェクト」の関係者、上記科目の履修生を中心に「若者が発信する『海ごみゼロ』の文化」をテーマとして、若者の未来ビジョンを語る共創カフェの開催を企画しています。また、海ごみ環境学習リーダー育成研修の第2回は、本学の古山隆教授から、最近話題になっているマイクロプラスチック問題を理解するための基礎を学ぶ予定です。

センターでは、今後も地域の多様な主体、講義・演習や学生独自の活動を柔軟につなげ、庄内の若者から全国・海外に発信する活動に積極的に取り組んでいきますので、皆様にもぜひこの共創の輪に加わっていただきたいと願っています。



三川町中高生ボランティアサークル・来夢来人との共創活動「RE:プロジェクト」による「赤川河口海岸クリーンアップ作戦」（7月17日開催）の集合写真

【社会福祉士実習指導者講習会】

社会福祉の未来を担う後継者育成に向けて

社会福祉士実習指導者講習会担当

（日比 眞一 准教授・灰谷 和代 准教授・小関 久恵 准教授・佐藤 昭洋 助教）

公益大では、大学と福祉現場による学生たちの安定的な社会福祉士の実習先の確保と、山形県内の社会福祉士の方々とのネットワークを強固にしていくプラットフォームを目指し、地域における専門職教育のあり方を考えていきます。

10月30、31日に、本学にて県内初となる社会福祉士実習指導者講習会を開催しました。講習会には、山形県内の事業所等に勤務されている社会福祉士58名が受講しました。開催にあたり、山形県社会福祉士会様よりご後援を、山形県社会福祉協議会様よりご協力を賜りましたことを感謝申し上げます。

1日目は、「実習指導概論」、「実習マネジメント論」、「実習プログラミング論」の講義を実施しました。2日目は、「スーパービジョン論」の講義と演習を実施しました。午後の演習は、社会福祉士を目指す本学の学生11名も参加し、受講者の方々と交流しました。終盤には、すでに実習生を受け入れている実習指導者様をお招きし、新たに実習指導者となる受講者の方々にメッセージを送りました。

受講者からは、「これまで山形県内での講習会の開催はなかった。コロナ禍になり県外移動も慎重になる中、公益大で開催していただいて本当によかった」とお声をいただきました。

また、本学の卒業生も複数名受講しており、将来の実習指導者となることで後輩たちの実習教育を担うといった新たな循環も生まれようとしております。

本講習会の実施は、山形県の社会福祉士養成教育における開拓的、歴史的なものとなりました。福祉社会の推進に向け、今後も本学では実習指導者様とのネットワークづくりの機会を予定しております。

修了者の皆さまおめでとうございます！



山形県内の58名の社会福祉士の方が受講された会場の様子



2日目には、社会福祉士を目指す本学の学生も一緒になって、白熱したロールプレイングに参加しました。



2日間にわたる講習を終えて、修了証の授与が行われました。

【学生たちのクラブ・サークル等の活動】

— 第21回 公翔祭（大学祭） —
Change Action ～思いを伝えよう！～

第21回 公翔祭実行委員長 新藤 瞭（3年生）

2021年10月17日、第21回公翔祭を開催しました。昨年は新型コロナウイルス感染症対策のため、お客さんをお呼ばずに開催しました。そのため、今年こそはお客さんをお呼ぼうと張り切って準備を進めて参りましたが、第5波が重なってしまったことから、今年も学内者に限定しての開催となりました。

今年の公翔祭のテーマは、「Change Action～思いを伝えよう！～」でした。Change(変化、移り変わり)Action(ふるまい、行動)という用語を選んだ理由は、コロナ禍のため、思うように行動することが出来ない学生に楽しんでもらい、少しでもコロナ疲れを軽減していただきたいと思い、このようなスローガンを設定しました。10月17日の1日限りでしたが、無事に開催することができ、学内者以外にも関わらず公益ホールで立ち見の人も出るなど、大盛況で終わることが出来ました。

来てくれた方に「楽しかった」「ありがとう」と言われたときは、開催して良かったなと思うと同時に、涙が出てきました。

このように大成功で終わることが出来たのも、私とともに準備を行って来てくださった実行委員会の皆さん、事務局や先生方、そして、保護者会と地域の皆様のお蔭だと思っております。本当にありがとうございました。来年は新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いてくれることを期待して、お客さんを入れてさらに盛り上がる公翔祭が開催できるとよいと思います。



— オレンジリボンチーム2021 —
オレンジリボンから繋がる子ども虐待防止の輪

オレンジリボンチーム2021代表 奥山 舞（3年生）

オレンジリボン運動とは、子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける運動のことです。私たち「オレンジリボンチーム2021」はサークルやゼミ、学年、性別の枠を越えて、9月からチームを結成し活動を行っています。

活動内容は、オレンジリボンの作成、配布と啓発活動、児童虐待に関する学習などです。活動を始めたきっかけは、児童養護施設でのサークル活動を通して児童虐待に関心を持ったことです。この活動を通して、学生から地域や社会に向けて発信していき、庄内地域を中心に子ども虐待防止の輪を広げていきたいです。



山形県庁へオレンジリボンを配布しました。



オレンジリボンチーム2021のメンバーです。



学生たちの手作りによるオレンジリボン

— 保育士試験 —
友人たちの協力で難関試験に初挑戦で合格！

横山 夢月（4年生）



在学中に資格試験の勉強を頑張る学生がいます。教員のサポートもあり、初めての受験で合格した横山さんにお話を聞きました。

私が保育士試験を受けようと思ったのは、先生や友人の誘いがきっかけでした。私にも受験資格があるとわかり、高校時代に介護福祉士を取得しましたが、保育士も取得したいと思うようになりました。試験は筆記試験と実技試験があり、合格率は20%前後とされています。私の試験勉強は、アルバイト先での休憩や部活前の隙間時間を有効に使うことで知識をつけていきました。

当日の試験は自分との戦いでした。筆記試験では苦手科目も友人と復唱して克服し、実技試験では造形と言語を選択しました。なにより、先生や友人のサポートが心強かったと感じています。疑問や不安をすぐ相談できる環境のおかげで無事に合格することができました。

次の目標は、社会福祉士国家試験の合格です。保育士試験で身につけた知識や自信が、強い励みになっています。公益大では、努力次第で社会福祉士も保育士も取得できます。この流れをぜひ後輩たちに受け継いでほしいです。

— 女子サッカー部 —
全日本女子インカレへの出場を目指して！

女子サッカー部監督 進藤 和真

本学の女子サッカー部は強化指定をしていただいております。10月現在4年生6名、3年生5名（内マネージャー1名）、2年生5名、1年生2名の18名で活動しております。

チームとしてはディフェンス時においても攻撃的にボールを奪っていくことで、よりアグレッシブに、よりダイナミックに常に相手のゴールを目指していく攻撃的な姿勢を基本としながらメンバーやポジションを固定せず対戦相手や試合の状況に応じて選手それぞれが持っている個性が最大限発揮できるようにしています。

基本的な練習スケジュールは火曜日からの平日4日間と土曜日が試合となっており日曜日と月曜日に休日を設ける形をとり部活以外の時間も有効に活用できるようにしております。練習時間については部員全員の授業終了後の18時から19時の間でスタートし2時間から2時間半程度となっております。

今年は残念ながら目標としていた全日本女子インカレへの出場は叶いませんでしたがこの悔しさを来年晴らせるように選手・スタッフ一同努力してまいりますので応援をよろしくお願いいたします。



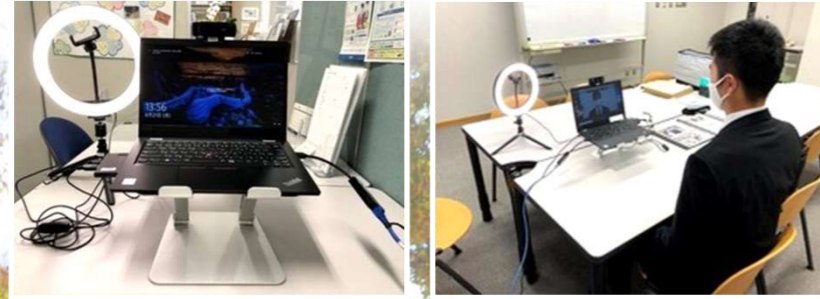
[Topic!]

学生たちは社会にはばたく準備をしています

～コロナに負けない就職活動～

コロナ禍の現在、就職活動における採用面接は、最終面接を除きオンライン面接が主流となっています。オンライン面接では、人柄もさることながらカメラ越しの顔の印象をよくする（顔を明るく見せる）ことも大事になります。

キャリア開発センターでは、リングライトなどの照明機器や、パソコンを含むオンライン面接用機器を保護者会にご購入いただき、学生への貸出を行っています。導入と同時に学生が活用を始め、大活躍しています。



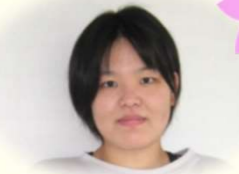
夢を叶える 学生たち

コロナに負けず多くの4年生が希望の進路を叶えています。今回は2名の学生が就職活動を振り返り、力強い抱負と後輩へのメッセージを寄せてくれました。



川村 大樹 さん
内定先：公務（消防）

私は、大学2年次のインターンシップで1週間消防署を訪問し、その体験を通じて消防官を目指すことに決めました。消防官を目指すにあたり、公務員試験の対策が必要となったため、就職筆記試験講座やキャリア開発センターを活用し対策しました。キャリア開発センターの手厚いサポートのおかげで合格に近づくことができたと感じています。ここがゴールではなくスタート地点だということを忘れず、努力を続けていきたいと思います。



原 聖那 さん
内定先：小売業

私の就活を一言で表すと「自己分析大事!」です。私は①人に話す、②話した内容をまとめる、の2点を3年の5月から始め、その資料は50枚を超えます。最終的に業種も職種も異なる複数企業から内定を頂き、1社に絞るのは苦渋の選択でした。しかし、書き溜めた自己分析の資料を基に、納得して決断できました。自己分析は就活に限らず、内定後の生活全体にも良い影響を与えます。就活中の3年生にも力を入れて取り組んでほしいです。

キャリア開発センターでは、これからも学生一人ひとりのニーズに応じた手厚くきめ細やかな支援を行っていきます。

【主な就職先（一部抜粋）】 ※2021年3月卒業者
山形県警察、長井市、国家公務員、山形県、秋田県、山形銀行、秋田銀行、日本年金機構、日本生命保険、日本マクドナルド 他

編集後記

コロナ禍のオリンピックイヤーも終わりを告げ、新春を迎えますこの季節に「公益大ニュース」第7号を発行しました。治まっては新種が広がるウイルスではありますが、徐々にこれまでの活動が戻ってきていることも本号を通して伝えたいと思います。

広報誌『公益大ニュース』第7号 2022.1

〒998-8580 酒田市飯森山三丁目5番地の1
TEL:0234-41-1111

東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science

